

ロータリーとは

ロータリーの誕生とその成長

20世紀初頭のシカゴの街は、著しい社会経済の発展の陰で、商業道徳の欠如が目につくようになっていました。

ちょうどそのころ、ここに事務所を構えていた青年弁護士ポール・ハリスはこの風潮に堪えかね、友人3人と語らって、お互いに信頼のできる公正な取引をし、仕事上の付き合いがそのまま親友関係にまで発展するような仲間を増やしたい、という趣旨でロータリークラブという会合を考えました。ロータリーとは集会を各自の事務所持ち回りで順番に開くことから名付けられたものです。

こうして1905年2月23日にシカゴロータリークラブが誕生しました。

それからは、志を同じくするクラブが、つぎつぎ各地に生まれて、国境を超え、今では200以上の国と地域に広がり、クラブ数36,158、会員総数1,217,616人(2020年5月18日R1公式発表)に達しています。

そして、これら世界中のクラブの連合体を国際ロータリーと称します。

このように、歴史的に見ても、ロータリーとは職業倫理を重んずる実業人、専門職業人の集まりなのです。その組織が地球の隅々にまで拡大するにつれて、ロータリーは世界に眼を開いて、幅広い奉仕活動を求められるようになり、現在は多方面にわたって多大の貢献をしています。

日本のロータリー

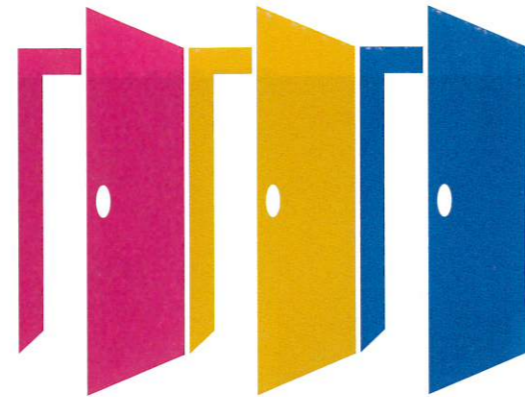
わが国最初のロータリークラブは、1920(大正9)年10月20日に創立された東京ロータリークラブで、翌1921年4月1日に、世界で855番目のクラブとして、国際ロータリーに加盟が承認されました。

日本でのロータリークラブ設立については、ポール・ハリスの片腕としてロータリーの組織をつくり、海外拡大に情熱的に取り組んだ初代事務総長チェスリー・ペリーと、創立の準備に奔走した米山梅吉、福島喜三次などの先達の功を忘れることができません。

その後、日本のロータリーは、第2次世界大戦の波に洗われて、1940年に国際ロータリーから脱退します。戦後1949年3月になって、再び復帰加盟しますが、この時、復帰に尽力してくれたのが国際ロータリーの第3代事務総長ジョージ・ミーンズでした。

その後の日本におけるロータリーの拡大発展は目覚ましいものがあります。ロータリー財団への貢献も抜群で、今や国際ロータリーにおける日本の地位は不動のものになりました。現在、日本全体でのクラブ数は2,248、会員数88,309人(2020年4月末現在)となっています。

2020 - 21 年度 R1 テーマ



ロータリーは機会の扉を開く

Rotary Opens Opportunities

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：

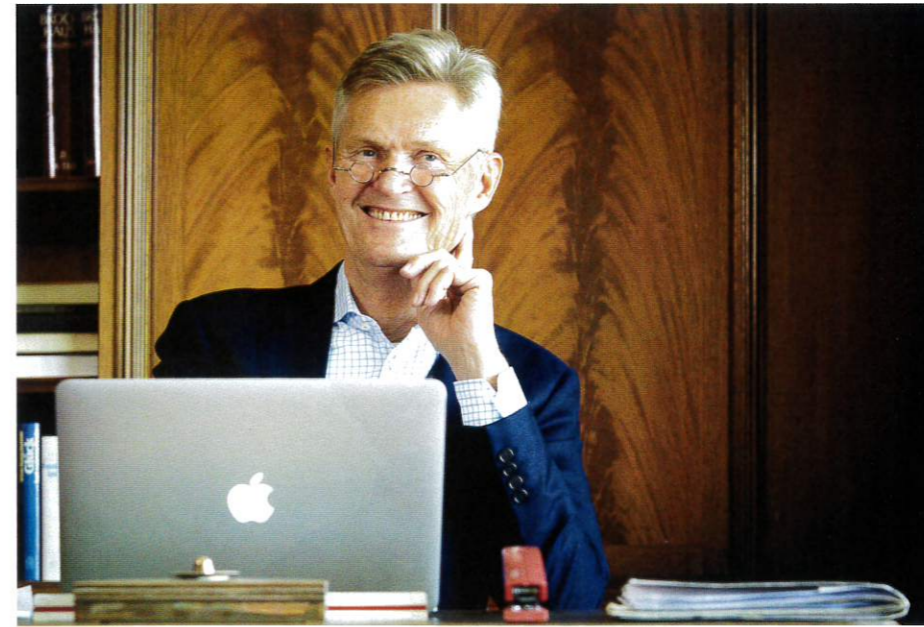
- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を実践すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

R1 会長メッセージ



President's message

功が約束されているわけではありません。世界は急速に変化しています。これは、今回の危機が始まる前からのことです。昼の例会からオンラインの会合への移行が始まり、Zoom(ウェブ会議システム)やSkype(インターネット電話サービス)で会合が行われるようになる前から、ソーシャルメディアで友情が培われ、旧交が温められ、交流が行われていました。若い人たちには奉仕をしたいという強い欲求があります。しかし、ロータリーのような団

ロータリアン、ローターアクター、そして友人の皆さんは楽観的になるにはふさわしい時ではないと思われるかもしれませんが、今こそ楽観的になるべきなのです。ロータリーが誕生するはるか前から、人類は進歩と忍耐が試されるような重大な危機に立ち向かってきました。ロータリーができてからも、数多くの悲劇に直面してきましたが、人類はそれも乗り越えてきました。そして、ロータリーは常に世界を癒やすために尽力しています。

どんな危機も、再生と成長の機会になります。新型コロナウイルス感染症が拡大し始めたばかりの頃、アメリカ・サンディエゴで開催された国際協議会で「ロータリーは機会の扉を開く」という会長テーマを発表しました。これは私が長年にわたって信条としてきた言葉です。

ロータリーは入会したクラブが全てではなく、そのクラブを通して終わりなき機会の扉が開かれます。私たちは、自分たちや他の人のために機会を生み出すことが、良いことと信じています。ロータリーの奉仕活動はその規模の大小を問わず、支援を必要としている人々のために機会を生み出します。そして、ロータリーは、より豊かでより有意義な人生を、世界中の友と共に中核的価値観に基づいて送るための機会の扉を私たちに開くのです。

政府や公的組織は、ロータリーの活動にとって大きな意味合いを持つ公衆衛生のパートナーシップへの理解を深めつつあります。自粛生活の中で絆を求め、地域社会の助けになりたいと願う人々には、創立以来掲げてきたロータリーの理念を進んで受け入れられているのです。

これは喜ぶべきことではありますが、これまで以上にロータリーが活躍する機会が増えているからといって、成

体で重要な役割を任せてもらえるのかどうか、違う種類のつながりを築く方がより大きな影響を及ぼせるのではないかと、私たちは若い世代から問われています。今こそ、全ての選択肢を検討して、新しい方法を試し、未来のロータリーに向けて備える時です。

新型コロナ禍では誰もが変化に適応せざるを得ませんでした。これは良いことです。ロータリーの新しい行動計画では、適応力を鍛えるように呼び掛けていますが、適応するだけでは十分ではありません。この新しい時代の問題に対処し、世界が切実に必要とするロータリーになるためには、私たちは変わらなくてはなりません。それも、劇的に変わるのです。

それが、今年度だけでなく、今後のロータリーの課題です。理想を実現するための手だてを求めている若い世代の考えやエネルギー、意欲を受け入れ、新しい時代に合わせてロータリーを変えていけるかどうかは私たちにかかっています。これまでの活動をただそのままオンラインに移行するのではなく、デジタル時代に完全に適応した団体にならなくてはなりません。

世界はこれまで以上にロータリーを必要としています。今後何世代にもわたってロータリーが機会の扉を開いていくようにできるかどうか、それは私たち次第です。

Holger Knaack

HOLGER KNAACK

2020-21年度 国際ロータリー (R1) 会長

ロータリーの友
Home Page

原文(英語)はこちらから www.rotary-no-tomo.jp